

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0790400659		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターいわき小島(ひかり)		
所在地	福島県いわき市小島町一丁目4-6		
自己評価作成日	平成27年3月13日	評価結果市町村受理日	平成27年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年4月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の研修を通して職員のスキルアップに努めている。</li> <li>・毎月一回、福祉レクリエーションネットワークにより、ボランティアを招き体操やゲーム等行い入居者様が楽しく過ごせる環境を提供し、生き活きと生活している。</li> <li>・ホーム内の花壇を活用し、入居者様と職員と一緒に花や野菜を育て楽しんでいる。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>1 法人は介護関連事業所を全国に展開しており、事業所では法人の蓄積したノウハウを活かした事業運営及び介護サービスの実践に努めている。また法人では県内の関連事業所に対して「お客様満足度調査」を実施しており、県内全体及び各事業所ごとの利用者及び家族の意向把握し、各事業所の運営に反映させている。</p> <p>2 事業所では管理者やリーダーが講師となり毎月テーマを決めて内部研修を実施しており、職員のスキルアップ体制が構築されている。また、法人では職員の資格取得に対する支援があり、資格取得者には待遇に反映させる体制となっている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に提示し、毎日唱和を行うことで、共有実践に繋げるよう努めている。	事業所理念は開設時に全職員で話し合い作り上げた。理念は事業所に掲示し、毎日唱和して全職員が意識を共有して「いつも笑顔での生活」の実践に努めている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の散歩時は近隣の方と挨拶等行い交流に努めた。当ホームでの夏の催しは地域の方も参加頂けるよう呼びかけた。	毎月定期的に訪問してくれるボランティア(体操・歌・ゲーム等)のほか、音楽療法、フラダンス、歌謡、舞踊等のボランティアを多く受けており、利用者も共に楽しんでいる。また、事業所の祭りには地域住民の参加があり広く交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	催しものを企画実施した際は認知症のことやグループホームについて理解して頂けるよう努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し、会議メンバーからの意見や助言を頂く事で、サービス向上に努めていく	運営推進会議は開設以来1回のみ開催である。現在、定期的な開催に向けて年間計画しており、運営推進会議の意義を十分活かしたものとするため、各分野から広く委員を選定中である。	運営推進委員は地域代表者・福祉関係者等から選定されることが望ましい。また、運営推進会議は年6回定期的に開催され、議事録を適正に作成することが必要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いわき市長寿介護課や地域包括支援センターとのスムーズな連携が図れるよう協力関係を築けるよう努めた。	開設時より行政の担当課とは利用者の状況報告や相談等をしており、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや外部での研修資料等を活用し職員研修を行い事例を基に、テストをする等身体拘束のないケアに取り組んでいる。	「高齢者虐待・身体拘束について」は全職員を対象に内部研修を重ね、全職員が共通認識のもと拘束のないケアに努めている。「言葉の拘束」についても職員間で注意しあっている。日中、玄関の施錠は無くセンサーや職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に虐待について学べる機会を設けている。各々のスタッフで注意をすると共に、職員間でも注意し合える環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、成年後見制度を利用している方は居ないが、要望等あった場合、助言活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望時や契約時に説明を行い不明な点不安な点がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様との会話やご家族様への聞き取り、顧客満足度調査等で意見・要望を確認し、スタッフ間で共有、話し合うことで日々のケアに活かせるようにしている。	家族会が結成され年2回開催している。法人では「顧客満足度調査」を実施し、各事業所ごとに集約し運営に反映させている。また、家族の面会時等あらゆる機会を活用して家族の意向を把握している。収集した意見等は「業務ミーティング」等で話し合い、日々のケアや事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の業務内で職員ひとりひとりの意見考えを述べやすい環境づくりを行い運営に反映させている。	事業所では職員が管理者に何でも気軽に言える環境作りをしている。出された意見は「業務ミーティング」等で話し合いサービスや事業所運営に反映させている。意見の内容によっては、法人に上申される体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内のスキルアップ制度がある。事業所として個々の努力実績等を把握しやりがいや向上心を持って働ける環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1回/月の職員研修や外部研修等の案内参加を呼びかけを行い、各自がスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等で行われる勉強会を通じて同業者との交流に努め情報を共有しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・後とご本人と話すを機会を設け、安心して生活できるよう努めている。また、信頼関係が早期に築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受け付けた時点でご家族の困りごとを傾聴し、不安が軽減されるよう助言を行い、安心してサービスが受けられるよう努めている。また、入居後も同様に報告・相談・連絡することで、信頼関係が構築できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当していたケアマネージャーからの情報とご家族・本人の置かれている状況を把握し必要としているサービスの提案等随時行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に相手の立場に立って物事を考え、一緒にゆっくりする時間を作る努力をし、お互いに支えあえる環境を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はゆっくりと過ごせるよう、環境を作りを行っている。また、ご家族にも協力を得る事で絆が継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら外出・外泊の提案を行い、馴染みの関係が途切れないよう努めている	家族の協力のもと外泊や外出を楽しんでいる利用者もいる。馴染みの理美容院の利用は家族同伴を基本としているが、訪問理美容も受け入れている。友人等の訪問もあり、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格・交友関係等を把握し、孤立しないよう利用者同士の関係作りのお手伝いを行っている。また、各ユニットの利用者が交流できる場を提供し一人ひとりが孤立しないよう環境を整えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じてご家族からの相談に応じられるよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を通じて表情や言動から本人の思いをくみ取り、把握できるよう努めている。また、相手の立場に立って検討し、思いを把握できるよう努めている	全職員が日々の生活の中から会話・動作や仕草を見逃さないよう心がけ、利用者の意向を把握している。把握した意見等は全職員で話し合い、一人ひとりに合ったサービスに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族等からの情報を基にセンター方式を活用することで、生活歴や生活習慣等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、そのときの心身の状況の把握・情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の更新時、心身の状態変化に合わせアセスメント・担当者会議を実施し、本人が抱えている問題・ご家族の要望・スタッフの提案を反映し、現状に即した介護計画書を作成している	利用者の現状把握を十分に行い、利用者本位の介護計画を作成している。日々の介護記録等をもとに利用者や家族と話し合い、定期的に介護計画を見直している。利用者の状態に変化があった場合には随時計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録・管理日誌等で、情報の共有を図り、サービスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、自費ヘルパーや福祉用具等の利用提案・相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族・知人の協力を得ながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に応じ、訪問診療の調整を行う等、医療との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診を支援しており、受診は家族対応を基本としている。協力医療機関への受診には職員が対応している。協力医療機関からの訪問診療と月4回訪問看護師を受け入れている。受診結果は家族と報告しあい情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、月4回訪問看護師による健康チェックを実施している。また、体調等の情報の共有が図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族・医療機関と情報共有を図りながら、早期に退院ができる様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針を説明し、本事業所が出来ることへの理解していただけるよう努めている	利用時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を家族に十分説明し、同意を得ている。利用者の状態変化時にはあらかじめ家族の意向を確認し、医師等と相談のうえ家族の意向にそって柔軟に対応しており、全職員が意識を共有して実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや、定期的に消防署員指導の下、介護職員が出来る初期対応訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/月避難訓練を実施し、緊急時実践できるように努めている	消防署立ち合いの「総合防災訓練」を年2回実施し、1回は消防署立ち合いで実施している。事業所独自では毎月19日を訓練日として夜間想定・自然災害・伝達訓練を実施している。非常用のドライ米・水・乾パン・缶詰・衛生用品・簡易トイレ・ランタン等は備蓄している。	事業所独自の防災訓練の実施記録を作成することが望まれる。また、あらゆる災害に即した初期対応について事業所としての対応を全職員で検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思い・人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	個人情報の保護やプライバシーの保護については「個人情報の取り扱いにかかる覚書」を家族に説明の上同意を得ている。全職員にも周知し共通理解をしている。トイレや入浴時の誘導も利用者の気持ちを大切にさりげない声かけを工夫して実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表現できるよう、環境を整えたり、選択肢を準備することで、自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を把握できるよう日々のコミュニケーションや生活状況を把握し、一人ひとりの生活リズムを崩さないよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月1回の訪問理美容を依頼し、各自がおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事中の会話から嗜好の確認等を行い、提供する事で楽しい食事となるよう努めている。また、味見等も行っていただく事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。	献立は法人の管理栄養士が作成しているが、利用者の希望を取り入れながら献立委員が臨機応変に対応している。行事食として年越しそば・節分・彼岸・節句・夏祭り・芋煮会・誕生会・クリスマス会等を数多く実践し、食事が楽しいものとなるよう工夫している。利用者の状態によっては刻み食やおかゆなどにも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取チェック表を利用し、一人ひとりの摂取量の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の能力に合わせ、毎食後口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、声かけ等実施トイレで排泄できるよう自立支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間や仕草からトイレでの自然排泄に向けて支援している。オムツやリハビリパンツ・パット等は職員間で話し合い利用者一人ひとりにあったものを使用するよう努めている。適切な誘導により改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分飲用の声かけや、適度な運動支援を行っている。また、医師と相談し、内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調を考慮し、入浴支援を行っている。	利用者の希望により入浴できる体制となっている。入浴拒否者には担当者・時刻や話題を変え促している。体調により入浴できない利用者には足湯・シャワーや清拭で対応している。季節を感じるゆず湯・入浴剤なども楽しんでいる。家族の協力により温泉入浴を楽しんでいる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じて休息を提案する等している。また、空調等も調整し快眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を個人ファイルにて都度確認できるようにしている。また、内服薬変更や追加時は申し送りを行い、体調や症状変化の観察が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事を開催している。また、日常生活の中で個人の能力に応じた生活リハビリを実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近所への買い物等、本人の要望を聴きながら実施している。また、ご家族へ協力を呼びかけながら、外出支援を行っている	近隣のお花見は散歩がてら数組に分かれて楽しんでいる。家族が参加してのバスツアーを実施しており、利用者の楽しみとなっている。また、日光浴等で外気に触れる機会を日常的に実施している。敷地内菜園での花や野菜の植え付けから収穫まで職員と一緒に楽しみながら作業している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをして預かっている中から、本人の希望に応じて買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話する際、要望を聞き電話での会話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度の調整を行い、快適に生活できるよう努めている。また、季節を感じられるよう共有空間の環境を整えている。	共用空間のリビング・キッチン・廊下等は彩光・空調等が適切に配慮されており、心地よい空間となっている。利用者は共有スペースでゆっくり落ち着いてテレビや新聞などを広げ、思い思いに過ごしている。共用空間は掃き出しとなりベランダに通じ避難時には有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とは別に椅子を用意し、思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	家族と相談し、馴染みのもの(家具・写真)を持ち込んで頂き、本人が居心地良く、本人らしい居室となるよう、配慮している。	居室はクローゼット・エアコン・換気扇等が標準装備されている。ベットは利用者が各自準備することになっており、カーペットに布団仕様で和風タイプの利用も可能である。利用者は使い慣れた小筆筒・テレビやポータブルトイレを持ち込み自宅と変わらない生活環境を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるよう、手すりの設置や、休憩の為の椅子等を設置している。また、日めくりカレンダーやトイレの場所をわかりやすくする事で、自立した生活が送れるよう支援している。		